

## 令和5年第7回教育委員会会議

令和5年5月17日

午前10時30分 開会

### 1 開会宣言

○廣瀬教育長 それでは、ただいまから令和5年第7回教育委員会会議を開会いたします。  
会期は本日限りといたします。

本日の会議で欠席者を教育総務課長から報告をお願いします。

○森教育総務課長 教育総務課でございます。

本日の欠席者はございません。

なお、議案第19号、四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命についての説明者として山路青少年育成室室長が出席されております。

加えまして、議案第20号、四日市市社会教育委員の委嘱についての説明者として、加藤市民生活課課長補佐が出席されております。

なお、本日、資料の差し替えがございます。34分の13ページを御覧いただけますでしょうか。こちら、先ほど申し上げました議案第19号、四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命についてですが、こちらの説明資料といたしまして、次のページ、34分の14ページでございますこちらの名簿につきましては、事前にデータで配付をさせていただいております資料で、備考欄、右側の網かけの箇所につきまして、正しい内容に改めてございます。恐れ入りますが、御確認をお願いいたします。また、修正いたしましたデータにつきましては、会議の終了後にタブレットに改めて格納させていただきますので、どうぞよろしく願いをいたします。

以上でございます。

○廣瀬教育長 傍聴者はお見えでしょうか。

○伊藤教育総務課主幹 傍聴者はありません。

### 2 会議録署名者の決定

○廣瀬教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、伊藤委員と豊田委員とでお願いしたいと思います。

御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議ないようですから、提案どおりに決定をいたします。

### 3 議事

○廣瀬教育長 これより議事に入ります。

本日の議事は、議案5件、協議事項1件、報告事項1件ですが、協議事項、令和5年度教科用図書採択については、採択協議会の調査員名等が明らかになることで採択に支障を来すおそれがあります。こういったことから非公開で協議する必要があると考えてございますが、委員の皆さん、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議ないようですから、後ほど非公開にて協議をいたします。

#### (1) 議案

##### 議案第17号 四日市市立博物館協議会委員の任命について

○廣瀬教育長 それでは、議案の説明に入ります。

議案第17号、四日市市立博物館協議会委員の任命についての説明をお願いします。

○廣瀬博物館副館長 博物館、廣瀬です。どうぞよろしくお願いいたします。

資料は34分の3を御覧ください。

議案第17号、市立博物館協議会委員の任命について説明をいたします。

博物館協議会は、資料34分の6ページ上段にありますように、博物館法23条において、公立博物館に置くことができると定められた、館長の諮問に応じ、意見を述べる機関です。24条でその委員は教育委員会で任命することになっており、25条で委員の任命基準は文部科学省令の基準を参酌することになっております。中段の博物館法施行規則がその省令で、22条に、委員は、学校教育、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験の中から任命するとあり、下段の市立博物館条例はこれらを参酌したものとなっております。

34分の4ページを御覧ください。

今回、新たに、6月1日から令和7年5月31日まで2年の任期で、14人の方をお願いをしていこうと考えております。新任が6人、再任が8人となっております。番号1番

から4番までは学校教育関係者、5番から8番が社会教育関係者、9番から13番が学識経験者、14番の方は家庭教育の向上に資する活動を行う方になっております。

協議会の内容については、資料34分の5ページに記載のとおりです。

説明は以上です。

○**廣瀬教育長** 御異議なければ議案のとおり承認といたしますが、何か御質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○**廣瀬教育長** それでは、御異議ないようですので、原案のとおり承認といたします。

#### 議案第18号 四日市市立図書館協議会委員の任命について

○**廣瀬教育長** 続きまして、議案第18号、四日市市立図書館協議会委員の任命についての説明をお願いします。

○**堀田図書館長** 図書館、堀田でございます。よろしくお願いいたします。

資料34分の7ページを御覧ください。

議案第18号、四日市市立図書館協議会委員の任命についてでございます。

これにつきまして、資料飛んでいただきまして、34分の9ページを御覧ください。

本協議会では、図書館の事業方針や事業計画、事業実績の報告、それから現在の図書館における課題等について御意見を頂戴しております。今年度は、電子書籍に関することや新図書館に関すること、また、現図書館の利活用等、例年に比べて事項も多岐にわたることを想定しまして、例年は3回程度開催させていただいていますが、今年度は5回開催する予定でございます。

左側の34分の8ページを御覧ください。

本協議会の委員につきましては、学識経験者や、それから図書館ボランティア等の方々を含む9人をお願いすることと考えております。9人中お二人の方が新任、そして7の方が再任となっております。任期は令和5年6月1日から令和6年5月31日までの予定です。

以上です。

○**廣瀬教育長** 今の提案につきまして、何か御質問はよろしいでしょうか。

特にないようですので、御異議なければ原案のとおり承認としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 では、承認いたします。

**議案第19号 四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命について**

○廣瀬教育長 続いては、議案第19号、四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命についての説明をお願いします。

○山路青少年育成室長 青少年育成室長の山路でございます。よろしくお願いいたします。

34分の16ページでございます、四日市市少年自然の家運営協議会規則第3条の規定に基づき、次の9名を四日市市少年自然の家運営協議会委員に委嘱または任命することについてお諮りいただきたいと思います。

議案資料14ページにつきましては、一部誤りがございましたので、本日差し替えの資料をお配りさせていただきました。大変申し訳ございませんでした。

本日お配りさせていただいた資料を御覧ください。

上から、小林さん、森田さん、堀田さん、宮崎さん、堤さん、柳川さん、伊藤さんの7名が委嘱、草川さん、杉本さんの2名が任命でございます。また、森田さんと堤さんが再任、あとの7名の方が新任となっております。

なお、この運営協議会におきましては、34分の15ページでございますように、年2回の会議を行い、少年自然の家の運営状況や利用状況等について御審議いただきますとともに、小中学生が行っております自然教室、あと、指定管理者の主催する事業について御意見をいただいております。昨年度の1回目では、コロナ禍における安全安心な施設運営について、そして2回目では、コロナ後の各種事業の展開や利用者数の回復に向けた取組、食堂の運営等について議論していただきました。

今年度も2回の運営協議会を計画しており、委員の皆様より御意見をいただきたいと思いますと考えております。

以上となります。よろしくお願いいたします。

○廣瀬教育長 ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等はございますでしょうか。

御意見がなければ、原案のとおり承認としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議がないようですので、承認いたします。

## 議案第20号 四日市市社会教育委員の委嘱について

○加藤市民生活課課長補佐 市民生活部市民生活課の加藤でございます。よろしくお願いいたします。

社会教育に関することにつきましては、令和4年度から教育委員会から補助執行の形で市長部局の市民生活部市民生活課が所管することになっておりますので、私から説明をさせていただきます。

資料につきましては34分の20ページを御覧ください。

社会教育委員につきましては、社会教育法第15条により、市町村に置くことができる旨の規定がございます。本市では、次の21ページのように、四日市市社会教育委員設置条例を制定し、本条例に基づき委員の委嘱を行っておりまして、現在11名の委員がいらっしゃいます。

資料戻っていただいて、17ページを御覧ください。

本日の議案でございます。

資料に記載の前田匠様、梅原浩一様、出口文彦様の3名の方々を社会教育委員として委嘱することについてお諮りさせていただきます。

めくっていただいて、18ページでございますが、議案参考資料としまして、委員の名簿をお付けさせていただきました。本日お諮りいたしますのは、名簿のうち、ナンバーの3と4と5の3名についてでございます。

ナンバー3の前田匠様につきましては、市立中学校長会からの御推薦です。前任の方の退職に伴いまして、その後任として委嘱するものでございます。任期は四日市市社会教育委員設置条例の規定によりまして、前任者の在任期間となりますので、令和6年の5月末までとなります。

ナンバー4の梅原浩一様は、北勢地区県立学校長会の御推薦です。ナンバー3の前田様同様、現任の方の退職に伴うもので、その後任として令和6年5月末までの任期で委嘱を行うというものでございます。

ナンバー5の出口文彦様は、四日市市自治会連合会からの御推薦です。こちらは、令和5年の5月末、今月末で任期が満了しますので、改選を行うものです。現委員である出口委員を引き続き委嘱するというものです。任期は令和5年6月1日から令和7年5月末までの2年間となります。

その他の8名の委員は、令和6年5月末まで任期が残っておりまして、改選はございま

せん。

資料の19ページにつきましては、議案参考資料として、社会教育委員の活動内容等について記載しております。本市の社会教育に関する御意見を頂戴し、また、御審議いただく場としまして四日市市社会教育委員会議を年2回行ってございます。毎回何かテーマを決めまして、社会教育に関連する市の施策や取組などについての委員の皆様の御議論をいただいておりますというところです。

令和4年度は、11月と3月の2回会議を開催しまして、第1回目では、社会教育委員関係の業務が市民生活課へ移管されたことに伴いまして、教育総務課から説明を行ったほか、市民生活課と、あと地区市民センターにおける生涯学習事業について御議論をいただいております。3月の第2回会議では、先日リニューアルをいたしました四日市公害と環境未来館の現地見学を行い、そこで市民ボランティアである解説員の皆さんの声を直接お聞かせいただく等の取組を行ってございます。

私からの説明は以上です。よろしく申し上げます。

○**廣瀬教育長** ただいまの提案につきまして、質疑、御意見等はございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**廣瀬教育長** 特に御異議ないようですので、原案のとおり承認とさせていただきたいと思っております。

#### 議案第21号 四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について

○**廣瀬教育長** 続いて、議案第21号、四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命についての説明をお願いします。

○**草川指導課長** 指導課、草川でございます。よろしく申し上げます。

議案第21号、四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命についてということですが。

四日市市いじめ問題対策連絡協議会及び四日市市いじめ問題対策調査委員会条例の第24号第4条に基づきまして、新規に7名、再任3名の方、合わせて10名をいじめ問題対策連絡協議会の委員に委嘱または任命したいと考えております。

各委員の役職、新任・再任等につきましては、23ページの参考資料に記載しておりますので、御確認ください。

次のページに行きます。

24ページにありますように、この会議は、各警察署、そして児童相談所、法務局など、いじめ防止等に関する関係機関、団体が、いじめ防止対策について便宜が図られるように、それぞれの取組について情報交換を行うものです。いじめの状況、文科省調査等の結果報告、あるいは教育委員会の取組などを紹介しております。さらには、事例検討会を設けて意見交換などを実施していくような状況です。

開催頻度としては、年間1回程度、例年秋に行うこととしておりますので、10月ぐらいに予定をしております。

25ページにつきましては、本協議会設置に関する法令等の抜粋が挙げてございますので、また御覧ください。

以上です。

○**廣瀬教育長** ただいまの提案につきまして、御質問、御意見はございませんでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○**廣瀬教育長** 御異議ないようですので、原案のとおり承認といたしたいと思えます。

全体にわたって何かご意見ございますか。

○**伊藤委員** 任命については全く異議もないですが、各委員会がどういった活動というか話し合いをして、そして、それがどう反映しているか、いろんな政策であるとかどういう改善事例につながったかということで、昨年までの資料ではそういうふうな政策の反映状況や業務改善事例という説明があって、私たち、任命する側として参考になるような内容がありました。今回それがないので、説明の中にそれを入れていただいた委員会もありますが、私にとってはその内容が参考になりましたもので、また今後、提案といいますか、こういうふうな場で説明していただく場合に、参考として御一考いただければなというふうに思いました。

○**廣瀬教育長** 委員会の活動状況であったり、そのことについての先の展開等、また時期を見て御説明させていただくような機会を取りたいと思えますので、この場でやるのか、また違う場でやるのかは、検討させていただきます。

○**伊藤委員** 場はほかでもいいと思えます。

○**廣瀬教育長** わかりました、ほかはよろしいですか。

## (2) 報告

## 1 教職員の働き方改革に関するアンケート調査の結果報告について

○廣瀬教育長 それでは、続いて、先に報告事項、教職員の働き方改革に関するアンケート調査の結果報告についての説明をお願いします。

○稲垣学校教育課長 報告をさせていただきます。

資料につきましては、34分の33から資料をつけさせていただいております。こちらにつけさせていただいておりますのは、結果概要①、②という形で概要版をつけさせていただいております。ほかに、別冊として、教職員の働き方改革に関するアンケート調査の結果が全て網羅されているものをお示しさせていただいているところでございます。

本日は、結果概要、34分の33からを説明させていただくこととさせていただきます。その都度、この資料となるアンケート調査については、目を通していただければと思っております。

このアンケートにつきましては、小中学校に勤務する教職員の勤務実態や働き方改革に関する意識等を把握し、現状分析することで、意識改革も含めての施策の改革の推進のための基礎資料として活用するために、期間は昨年度末、2月8日から2月22日、全教職員を対象にアンケートを取ったものでございます。回答率については以下に示したとおりでございます。

総括に行きます前に、34分の34を見ていただきますと、このようなアンケート調査結果が出てきたことからの総括となっております。ざっと説明をさせていただきます。

一番左上から右側に流れていきます。そして中段、左から右、下段、左から右という形でアンケート調査が進んでおります。それぞれ対象のページが小さいところに、例えば詳細はP6へという意味で書かせていただいておりますので、それぞれに詳細を御確認いただきたい場合は冊子に目を移していただければと思います。

この結果、職員の在校等時間につきましては、平均して11時間となっております。これは、勤務時間前に出勤している平均が48分、勤務時間後勤務している時間が平均にして1時間42分、それを勤務時間7時間45分と合算しましたところ、2時間30分超過の11時間という結果が出てまいりました。これは、四日市の教員が特に多いかというところではなくて、ほぼ全国平均と変わらない数字となっております。

ここから先が、教職員の時間の使い方というテーマで聞かせてもらった項目です。

時間外に行っている業務で長いものは何かという質問から始まって、減らしたい業務は何か、力を入れたい業務は何か、自分の時間の使い方についてどのように感じているかと

いうふうの流れていくわけです。

ここで主立ったところを紹介させていただきますと、一番最初の時間外にかけている業務で時間が長いものは何ですかという質問の中で、2位に授業準備というものがあります。時間外に授業準備をやっているということですが、これが半数以上、先生方がそう言っている。

授業準備についてですが、その次の負担や時間を減らしたいと思う業務は何ですかのところには、アンケート結果では、授業準備7%、それは、授業準備は減らすことはできないと考えている。一方で、その右を見ますと、力を入れたい、もっと時間をかけたいと思う業務は何ですか、1位、授業準備。つまり、時間外に今多くの時間をかけて授業準備をしているにもかかわらず、これでは足りない、時間があつたら多分私は授業準備に時間をかけるだろうという結果がここに出ています。

どういうことが言えるかという、何かしらの業務を削減して時間を生み出したとします。ところが、時間を生み出したけれども、教員はその代わりに授業準備に時間を当てるのだろうかという想像がつくわけです。

中段に移ってみますと、ここでは主に教職員の思いというところのアンケートを取らせていただいています。

真ん中にある項目、あなたは自身の業務にやりがいを感じていますか89%、多くの職員がやりがいを感じている。詳細は15ページに載っていますけれども、ここでのデータとして、やりがいがある89%、誇りを持っている85%、いい仕事だと思っている74%、自分に向いていると思う73%、社会に貢献できている77%というわけで、教職員はやりがいがあり誇りがある仕事であるというふうに実感をしているのですが、1つ右に目をやっていただきますと、さて、その教員の仕事を若い人たちに勧めたいですかという答えを求めると、勧めたいと答えた人は41%にとどまる。これが本当に今の教員不足の現状なのかな。働いている人たちはやりがいを持って誇り高くやっているけれども、それを次代の子どもたちに勧められるかという、とても勧められる仕事ではないというふうに考えている教員が多くいるということです。

また、その1つ右、勤務する学校は働き方改革に意識的に取り組んでいると感じますかということに関しては、59%の教職員が取り組んでいると答えています。ここで詳細が15ページに載っていますが、これを、校長、教頭のアンケート結果はどうかという、あなたの勤務する学校は働き方改革に意識的に取り組んでいると感じていますか、校長の

回答は94%が取り組んでいると言っています。しかし、全教職員を見ると60%にとどまる。

次の回答もそうです。あなた自身は働き方改革に意識的に取り組んでいると感じますか。校長、教頭の答えは、校長は97%が意識的に取り組んでいると答えています。教頭においては84%が意識的に取り組んでいると感じていますが、教職員全体を述べると65%にとどまる。

また、その次のところ、四日市市が取り組んできた働き方改革の取組に関しては、多くのことについて肯定的な評価をいただいているところでございます。この詳細につきましては17ページに記載してございますので、こちらで紹介させていただきました教育委員会としての取組については、効果的であったという評価をいただいているところです。

ところが、最後に、取組の効果として、四日市市の働き方改革は進んでいると思いますかという質問に関しては、進んでいると回答していただいたのが37%の教員にとどまっているわけです。これも面白いもので、77%の校長は、四日市は働き方改革が進んでいると回答している。教頭においては、66%の教頭が進んでいると。つまり、教員の働き方をコーディネートする側の人には進んでいるというふうによくの回答を得ていますが、働かされている側の方から見れば37%の人にとどまっているというふうな結果が出ております。

この調査結果を受けまして、資料34ページにまとめてあります。このまとめは、冊子では最後のページ、19ページにまとめてあるものを、ここに概要として示させていただきます。

総括としまして、この結果から見えてくる課題は大きく2つ。1つ目は業務量の削減、そして負荷の分散。2つ目は、意識改革の重要性、以前から言ってきたことではありますが、調査結果からも見えてきました。

そこで、課題1の業務量の削減、負荷の分散につきましては、これは、調査結果から見ると、時間外に行っている業務、減らしたい業務、改革を進めるために必要な取組の上位回答に、いずれも部活動が挙げられていることから、今も検討を進めている部活動の地域移行の推進の必要性を強く感じるところです。

また、次に、業務アシスタントの配置、高性能コピー機導入等、四日市の働き方改革の取組は高い効果があるというふうにも検証されておりますので、引き続きこの部分についての効率化を図っていきたいと考えております。例えば高性能コピー機、今導入しているも

のにネットワーク機能を導入など、さらなる業務の効率化ができればいいなと考えています。

次に、力を入れたい業務として、先ほども紹介させていただきました授業準備や児童生徒指導等、教育の質向上に直結する教師の業務が上位を占めていました。そんなところから、校務支援システム等の機能の充実、学習アプリや児童生徒情報のデータの共有と活用により、効率的、効果的な教育活動の推進。また、教師1人にかかる負荷分散のために、チーム担任制や学年担任制の研究を推進すべき、と感じております。

課題の2つ目、意識改革の重要性につきましては、学校における働き方改革の趣旨と必要性について、教職員、保護者等へ周知を図っていくことが大切なことだろうなど。つまり、学校の実情、現状を保護者、地域にしっかりと投げかけるということです。これは、先だつての妹尾先生の講演の中にもその重要性、地域や保護者は学校の先生の勤務時間をほとんど知らないというような提言を受けまして、やはり学校の現状を、まずは教職員、保護者、働き方改革の趣旨に沿って、その必要性の周知を図っていくことがまず第一歩かなと考えているところでございます。

この総括については、学校教育課がアンケートを取りましたが、今後、教育委員会全体として取り組んでいく必要があると考えております。

以上、報告をさせていただきました。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

先般の妹尾先生との懇談会も併せて、いろいろお気づきの点とかありましたらお願いしたいと思います。

○堀委員 働き方改革は進んでいると思いますかのところで、校長、教頭がかなり、多数の方が進んでいると答えているのに対して、教職員の方々がそれほどというのは、数字でこれだけ見ると、確かに管理職が現場をちゃんと見られていないみたいな捉え方もできるのかなと思ってしまいましたが、実際に多分働き方改革は進んでいるからこそその結果だと思っていて、校長、教頭が、世代としてはかなりベテランの50代の方々が、長期的な目で、例えば20年、30年前と比べたらもちろんよくなっている、でも、若手の先生は何十年前を知らないわけなので、直近の数年を見ただけでは大きな変化はないのかなというふうに思いました。

でも、一番大事なものは、20代、30代、40代の本当に全世代の先生方が今現在働きやすさを感じているかどうか的大事なので、校長先生、教頭先生も、昔よりはよくなって

いるのだからではなくて、やっぱりちゃんと見ていかないといけないところなのかなというのがこの資料で分かるかなと思いました。

また、意識改革の重要性で、学校における働き方改革の趣旨と必要性について、教職員や保護者や地域への周知を図るところで、これは本当に大事なことだなとは思いますが、ただ、教員がブラックな仕事だというのだけが伝わると、保護者にしたら、何か小さなことが相談しにくくなったりとか、自分の子どもが例えば将来教職員になりたいと言ったときに、本当に大丈夫かというような気持ちになったりしてしまうという心配もあって、伝え方って本当に難しいところかなと思います。PTAの会長として私がPTAに、保護者みんなにPTAとして関わっていく中で、先生たちはこんなに大変な思いをしているよという、同じ保護者が伝えるのはとてもいいことだと思いますけど、これを学校側から、大変でブラックだよって伝えるだけでは、本当に何も解決にならないのかなと思って、本当に伝え方、保護者の取り込み方みたいなのは、その学校ごとによっても地域性もあるだろうし難しいところかなというふうに思いました。

以上です。

○稲垣学校教育課長 おっしゃるとおりです。

教育委員会で分析をしたときも、世代ごとに多分意識は大分違うのだろうなということで、世代ごとのデータもあればよかったですけれども、残念ながら、このときまでには間に合わせることはできませんでした。おそらく今委員のおっしゃっているようなことが正解というか、最後のところにもありますが、学校事務のICT化こそが改革の本丸だと思っているのは、若い先生たちだと思います。これをベテランの先生というか、ICT化を非常に苦手としている先生に言わせると、それを導入することで余計につらいという感想もあります。世代ごとに思っていることは異なっており、だからこそ、働き方改革というのは、組織として進めていかなければならないことの難しさもあり、面白さもあり、将来の生き生きとした展望があるのではないかなというのは思いますけれども、それにつけても、やはり皆さん、誇り高き仕事と思っているのだったら、それこそアピールしなさいよというふうに思っているところで、そこで、大学生向けにというか、そんなところ向けにPR動画なんかもつくっていかうかなとは考えています。それはこちら側の発信として、学校からの発信についても、ブラックな状況を伝えるだけではいけないとは思っています。

○数馬委員 何か今御説明していただいた中に、大変だけど面白くもあるという言葉があって、私は非常にうれしかったのですが、今回のこのアンケート調査をタブレットで見

ていて、全体がジョークだなという感じで受け止めてしまったのですね。

というのは、端的に言いますと、資料34分の34の3番目の負担や時間を減らしたいと思う業務は何ですかという問いに2位にアンケートというのが入っていて、このアンケートにも答えてもらっているのに、アンケートって書くかよという感じが、これも世代のところで、若い方たちが、先生たちが、こんなアンケートをしてどうするんだみたいな、そういう意識がもろに出ているなという感じで。

私たちの世代だったら、アンケートを取られたら、言ってみたら、指導機関から言われるわけですから、アンケートに答えるのは、それも仕事の1つだし、できるだけ正直にとというのが、そういうスタンスだったのですが、そうじゃない世代がもういるということが表れていて、これは本当に私1人で笑ってしまいましたけど、お話の中でも、御説明の中でも、やはりジョークだなという感じのところがたくさんあって、本当の本質的なところで、学校で子どもたち、学校じゃなくてもとにかく教育に携わるということは、すごく大切なことで、素晴らしいことだって、それと同時に、働くということは、人間が生きていく、教育を受け終わって社会に出て働いて仕事をするということがいかに重要なことなのかということの刷り込みというのが、今なされていないのだと思いますね。

だから、何か働く時間よりオフタイムも大切みたいな、働く仕事、自分の仕事に誇りを持って働いていたら、仕事をやっている時間ってすごく楽しい時間になるはずだということを、それこそ教育のところで教えていかなきゃいけない。そのところが外されているから、こういう結果になってくるのではないかというのを、アンケートの調査をずっと見せていただいて、非常によく分かって、やっぱり今回のこのアンケートはとっても有意義な資料になるのではないかなというふうに私は思いました。というのが感想です。

○稲垣学校教育課長 ありがとうございます。

まさに、委員おっしゃったとおりということで、内容や質の向上というふうなことを本当に働き方の本質として考えている世代、世代でくくっていいのかわかりませんが、そういう方もいれば、効率重視の働き方というふうなことを胸に思っている方もいる。そんな中でのアンケートですので、本当にこれが赤裸々な答えなのだろうなというふうに思います。

だから、決して法令を無視するわけにはいきませんし、これが教職員の実態だというふうなことで我々は捉えて、そこに向けての教育改革というようなことをあてがっていかねばいけないのかなと考えます。

○数馬委員 教師の世界というとは変ですけど、きっと一般の企業で働いている人たちとはやはりそういうところで差は出てくると思いますね。だから、余計にモチベーションとか意識のところの問題につながってくるのではと思います。

働き方改革というのはどこでも言われていることなので、これを一般企業でやっても、やはり不満とか、どの業務がいいですかとかという、そういうことを聞き出したら、一般企業でも非常に面白い答えが返ってくるのだらうなと思いましたけど、自分の仕事だと思えるかどうかとか、そういうことでやりだしたら、早い話が、仕事をすれば言ってみたらお金をもらえるわけですよね、簡単に言えば。仕事をしなければお金は入ってこないわけですから、それが言ってみたら生きていくということの基本じゃないですか。そのところの考え方というのをどうしているのかと、幾らまででいいとか、一般の企業だと何かそういうところまでの意識調査という形になってきてしまうのですね。

だけど、教職員だと、そこに誇りとか生きがいとかというのを持てる仕事であるというのは歴史的に見てもそうなので、言ってみたら、働いているということにもう既に生きがいを感じているというのは出ていますので、これが100に近いぐらいのことになるのは、割とたやすいのではないかなというふうに思ったりしました。

でも、生きがいを持っているというのがあって、とても安心はいたしました。だから、すごく楽しく読ませていただいて。

○廣瀬教育長 企業との違いというところでいくと、やっぱり教育の効果って現れるのが即時ではないのですよね。やった仕事に対して成果を見取るとか、やった仕事に対して自分の実感を伴うというのは、終わった時点ではあるのですが、何か形として残るのに、何年も先に、子どもの成長であったり、大人になってからの活動であったりで返ってくるという、企業でいくと売上げであるとか販売シェアがどれだけとか、そういった数字で残るものが、教育だとあまり残りにくい。

そこで、やっぱり先生らは、やりがいとか誇りとかそういう質のところを求めていくのだらうと思います。やりがいとか教育の質に関わる部分を保障していくためには、反面、どこかを効率的にやり過ごすところが要るのかなって。効率化を図って、少しでも自分が本来やりたい時間をどう生み出すかによって、満足度とか働きがいとかが違ってくるのかな。だから、今、数馬委員が御指摘された、調査やアンケートみたいなのをやりたくないとか、その辺りの効率化を図って進めることで、自分のやりたい仕事の時間を確保する、ここは1つポイントなのかなと思います。

今回はグーグルフォームを使っただけの即時の回答なので負担はないはずですし、調査やアンケートを多くの先生がそんなに時間をかけてうちが求めておるかというところがあると思います。ちょっと違った話になっていきますけれども、質の向上や働きがいか、先生らのやりたい仕事を十分にさせるためには、一定、いろんな機器を入れながらも効率化を図る業務を、縮減できる業務を縮減、こういったところは大事なのかなと思っております。

**○豊田委員** 今回のアンケート調査が負担だというのは、比較的、社員とか職員とかと比べると出てくるのかなと思いますけど、そこの中でよく考察されているのが、答えたけど変わらないみたいな、だから、何でまたしなければならぬのかというのがあるので面倒といわれています。そういったものがありますし、今、ICTというかネット環境の中で集計もすごく楽になって、入力も簡単にしていけますが、それだから回収率がどんどん上がったというデータは、私の知る限りはなく、スクロールしていくとまだ質問があるみたいな感じの憂鬱さを感じるという部分もあったりとかというので、集計は確かに楽にはなるし、みんなが基本的にはスマートフォン等を持っているのでということにはなるけど、アクセス環境が悪いとか、ちょっと状況が悪くて入力できなかつたらやめるみたいなこともあります。その点、回答率については非常に高いと逆に感心したのですが、やっぱりこういうことが不満というのは、ここの調査だけじゃなくて、ほかにも職場でいろいろな調査とかアンケートが来ていたりとか、それこそ教育研究の中で協力してくださいというアンケートもあるだろうし、それに辟易していると思うのです。やる側は、負担のないようにとかというふうにして、これを研究することでオープンにして、知の積み重ねになるということは分かっているけど、だから、頼む側は頼むけど、答える側はまた来たみたいになるので、そういうあたりも全部含めての嫌だなという答えなのかなと理解をしたので、やっぱり特にこういう今回の調査のようなものは、明らかにこれによってここを変えたとか変えるとかということを実際にはっきり伝えていかないと、またやっていると感じになってしまうと思いました。

それから、例えば、若い人に勧めたいか、そうじゃないという答えが多いことに関して、どの年代層がどう思っているのかなと、職位なども含め今回のいただいているデータではなかったのですが興味がありました。そこは、例えば、想像ですけど、若い方で、やる気は満々で、学部を卒業して入ってきた方々が、現場に入ったら、大学でやってきた自分が理想とする教育というものが現場でできるかみたいな感じで来ていても、それに伴う、

ちょっと言葉は悪いですけど、それこそ大学のカリキュラムの中では習うことのない書類整理でしたり、そういうことを新たに学習しなきゃいけないくて、子どもたちに触れることができないとかという、そういうようなことは、いわゆる現実と、それから志高く、大学の教育の中にもそういうプログラムが入らないので、それは現場のことなので、そういうところの乖離でちゃんとサポートが入っているのかなと思います。働いている人たちは自分が頑張っているとかいい仕事だと思っているのに勧められないという、本当にその理由が何かと、そのメンバーが、どういう方がそういうふうに考えていらっしゃるのかということによって、一緒の対応では多分駄目かなと思いますけど。

私の知るところは以上のところになりますけど、若いナースたちは、基礎教育の中ではやっぱり、どういう看護をやりますかとか、人に向き合うときにどうしますかということで、これは教育長言われたように、やっぱり結果が手応えとしてなかなか得られない、満足感とか不消化感を残していく中で、看護ができませんとか言ったりするナースたちが、若い人は特にいるんですけど、なぜかという、やっぱり事務仕事が多かったりとか他職種のことを聞いて何かをしなきゃいけないというところをとて、患者さんとか対象の方を見て関わるのが難しい、それで、その方々と、今在院日数とかが短くなって、1回か2回でいなくなって、私のやったことはどういうふうに評価していったらいいんだろうみたいなことでの不消化感の中でどんどん疲れていったりとかというようなことがあったりするんで、そうすると、私はやっていくし、やらなきゃいけないし、大事なことやと思うけどどうだろうなって。学生時代は後輩とか兄弟にいい仕事だよって勧めることをする学生たちも、現場に出ると結構大変だといった感じに。お母さんぐらいの年代になると、いろいろな経験をされているので語ってくれますけど、そういうことがあるのですよね。

やっぱり先生方の構成年代を考えると、若い方が多い、20、30代の方が多いと。その方々がちょっと疲れていて勧められないと答えているのかなって想像してしまいましたけど、その辺りをどういうふうに入れていくかということで、いい仕事だというのをどう伝えていくかって、でも、この人たちもいい仕事だと思っはるわけなので、なぜ伝え勧められないかというのが、単純に、仕事の時間のことだけではなくて、その内容のことの何なんだろうというふうに。ただ、やっぱり授業準備に力を入れたいということとか、子どもたちに関わりたいということをしごく思っはるというのとは情熱的だなと思っはる、この思いをしごく大事にできるような何か手が打てるというのになというふうには感じました。

以上です。

○稲垣学校教育課長 ありがとうございます。

肌感覚でいいますと、豊田委員が思っていることが今の四日市の教職員に本当にばっちり当てはまると思います。といいますのは、残念ながら、本当に若くして仕事を辞めてしまうことがあります。一般的にその理由として、習ってきたことと、イメージしていたことと違う、子どもが好きなだけではやっていけないといったことで、その奥にある理由としては、ベテランの先生との比較において自分の可能性を見限ってしまうこともあるようです。

なので、そのような方には、いや、先生って思っているほど楽な仕事ではないし、現実とはかけ離れているよというような紹介になってしまうのかなというふうに思うところはあります。

○豊田委員 今って特に、昔でも口コミってそういうニュースだけはぱっと広がる傾向があるけど、今若い方はSNSを使うので、本当に広がるのが一瞬ですね。だから、その後、その方がいい体験をして、いい経験になっていき、こんなことがというつぶやきをしてくれても、前が大きくなっているとそれが消えてしまったりという今の状況というか、自分たちの時代とは違うところかなというふうに思ったりするので、子どもたちもそういうふうに広げたりとかというのをどうしようって先生方は苦労されるけど、やっぱり先生方、特に思い悩んでいる先生方のそういうつぶやきとかというのは、それを考えていらっしゃるところが、本当にちょっとした言葉で検索をかけると上がってきて、気持ちがそうになっているときはそういう情報だけを拾い集めに行ってしまうと、お利口な検索エンジンがそういう情報ばかりをまた上に上げてくるので、どんどんそういうふうになっていくというのも、四日市だけとかということではなくて、今の社会の傾向としてあり得るのを加味して、ではどのように吸い上げるというか、どうアプローチするというのが非常に難しい課題かなというふうに思います。

教育するなら四日市、こんなにいい環境なのだということをいかに発信していくかということと、ちょっと気持ちが萎えてしまいそうな先生方がよかったという声をどんどん出してくれるような現場の体制というか、そういうところが、大変ではあるかとは思いますが、すけど、していく。

そうじゃないと、例えば、得意なことだけを授業展開できる塾の講師のほうが選択肢としていいというふうにやっぱり選んでいくのではないかなと思っていて、子どもたちと接

して、子どもたちの成績が上がった、ここで合格した、次はこういう授業展開にしようとか、人気講師になったというふうな人とか、やりがいを感じてしまうのではないかと思っ  
てしまいます。そこにはないよさということをどうアピールしていくかというのも1つ課  
題かなというふうには考えました。それが何かはよく分からないですけど。

**○伊藤委員** ちょっとそれに関連することで、自分も、確かにやりがいを感じていて、い  
い仕事だなというふうに捉えていながら、勧められないというこのギャップは一体何だど  
うのがありましたが、ただ、今の学校教育課長の話であるとか、若い先生の間で感  
覚であるとか、豊田委員のお話も聞かせてもらう中で、自分はやっぱりよぎってくるのが、コロナ  
の関係で教師同士のコミュニケーション、いわゆる同僚性であるとか、その辺りがかなり  
低い時期が、しかも2年なり3年あったのではないかと。例えば、学年団でそういう細  
かいことまで、悩みも含めて、話せるような環境が果たして確保されたかということが気  
になります。

若い先生との関わりなんかをしているベテランの人に聞くと、やっぱり授業が終わって、  
そこから後、話しているということがほとんどなくて、それを消化できずにため込んでし  
まうということもあって、そういう意味で、本来、職場、いわゆる職員室や教師の関係と  
いう中で同僚性が非常に大事であるということが言われてきましたけど、そういう意味で、  
今後その辺りは、コロナのこの状況が変わる中で、ぜひ今後の視点として捉えていき  
たいなど。

そういう意味で、元のというか全体のところに戻りますが、このアンケートをこのタイ  
ミングで取って、この結果をどういう共有して今後に活かしていくかという意味では、自  
分はこのアンケートは非常にいいタイミングでもあり内容であるのではないかというこ  
とで、分析の分かりやすさも含めて感心しました。とっってもこれは今後の、ここに言  
われている目的の、さらなる改革の推進のための材料になっていけるのではないかと。  
ただ、するかしないかは今後の取組にかかってくるので、先ほど説明の中にもありま  
したように、どういうふうな形でこれを活かしていくかというのは非常に重要である  
というふうには思います。

その中で、さっきもそういうふうな、コロナ禍での厳しさはあったとしても、今の先生  
たちもなのか、今以上に授業の準備をしっかりとしたいと、自分の自己学習の時間をも  
っとかけて高めたいと思う先生がこんなにいるというのは、何かとっっても自分とし  
てはうれしいというか、そんな気がします。これがあればやれるのではないかというふう  
に思っ

まうところはありますけど、確かにこれは教師の仕事の宿命といえば宿命で、ここまでやったら、はい、終わりではなくて、向上というのは天井がないというふうに言ってもいいぐらいだと思います。その辺りで、どこで収まりをつけるか、自分で満足感を持つかというのは、これもかなり個人差がありますので難しいかとは思いますが、でも、この気持ちがあるというのは非常にうれしく思いました。

ただ、働き方改革として、今の状況の中で、以前も説明があったように、ガイドラインを出しながらなかなか現実進められなかったという中で、ちょっと進んだ段階での今アンケートですよね。その中で、勤務校では結構、確かに管理職等の断層があるとは、差はあるとは思いますが、60%ぐらいが進めているよと、自分でも意識的に進めているよというのは65%いると。それについては、やはりかなり先生たちは意識して進めようとしているというのは感じます。

ただ、四日市市の働き方改革はどうかと聞かれたときに、これが三十何%になってしまうというこの違いですね。これは一体何を、四日市市の働き方改革をどういうものとして捉えていて、このギャップがあるのかというのは、すごく自分も興味もあるし気になります。この辺りはまた、こんなふうに考えているというのがあったら教えていただきたいというのが1つ。

それから、これは、改革をさらに進めるという意味で3つ挙がっていますね。

部活動地域移行、これは今どれぐらい進んでいるかというのはあるとは思いますが、中学校の先生たちを中心に、非常に大きな視点で、これがないとなかなかそうはいかんぞというのもあって、今後これは教育委員会がかなり入っていかないとできないことの1つの内容ではあると思いますが、どう推進していくのかということもまた何か考えがあれば教えていただきたい。

もう一つ、2つ目に教育課程の見直しというのは、ちょっとクエスチョンです。一体これは何を考えられているのか。というのは、見直しという、何かもっとこうしたいというのがあってだろうかと思うので、これも、半分以上の方がそうやって捉えられているというのはどんなものか、この辺り、分析的なものであればということです。

I C T化は捉え方によって違うとは思いますが、やはり一定進めていかないと、これも効率化という意味では重要な視点だろうと。

そういったことで幾つか疑問になる今後の分析というところがあると思います。今後これをどう生かしていくかという意味での、例えば、校長先生や教頭先生のヒアリングを通

じて、実際の率直な気持ちを聞きながら、妹尾先生も言われていましたように、伴走支援という考え方が非常に大事だと思うので、ぜひ、またその辺り、今後、段階的によろしくお願いしたいなというふうに思いました。

ちょっとあちこちしましたけど。

○廣瀬教育長 3点ですね。

管理職と教員とのギャップ、働き方改革の進み具合、これについては学校教育課長、何か。

あと、部活動と教育課程の見直しは教育監でお願いしたい。

ギャップについての何かあったら。

○伊藤委員 学校では大体進んでいると、自分らは進めているよと思いつながら、四日市の働き方改革があんまり進んでいないという、その辺りの内容的なというか、どこを指してそうやって思われているのかなというのは、もうちょっと何かつかんでみえることがあったら。このアンケートからだけではなかなか厳しいとは思いますが。

○稲垣学校教育課長 ないものねだりというか、さらにさらに求めているのかなという。つまり、1個手前の学校業務アシスタントとか四日市としての働き方は、今まで四日市市が進めてくれた働き方については十分効果的だったよという評価をしてもらっている。それにもかかわらず、取組がまだ進んでいないというのは、どういう見なんかなと思うと、まさに、ここまでやってきたのは、人であったり物であったりとかお金であったりとか、そういったものをあてがってきて、それについては感謝している、効果的だったよ。でも、今もうやり尽くした感もあって、もっと進めやなあかなのでしょよね。ですが、何を求められているのかというのは、一番下の問い、働き方改革を進めるために必要だと思われる取組というところで網羅されていますけれども、こういうことが進んでいないのではというふうに思います。

○廣瀬教育長 おそらく進んでいない結果として、平成の時代から、先ほど堀委員が言われたとおり、昔と比べたら劇的に時間外勤務が縮減されていますし、私が見ると、年間月45時間に収まっているというふうに、頑張ったなと思う反面、令和2年、3年と臨時休業があったときと、臨時休業がなかった令和4年と、やっぱりちょっと増になってしまっている。もうこれ以上下らないのではというのが、先生らの思いの中で現実的にあるのでしょよね。そうだとすると、今後どのように進めてくれるのかみたいなの。

○豊田委員 例えば、設問が四日市は進んでいますかといったときに、比べる対象がない

ので、答えが自分はまだ大変だと思うと単純に答えたのかなって私は想像してしまったのですけど。

○**廣瀬教育長** プラス四日市って教育課題も多いので、当然いろんな声を拾って頑張ってもらっている現状がある中で、だから、画期的に、言うほど時間縮減ってこれ以上本当に進むのだろうかという思いがあるのではないかな。そこで、構造的改革の中で、現状の努力ではもう限界があるので、この必要な取り組み上位の部活動の地域移行や教育課程の見直しという大胆なところまでいかないと無理なのではないかというので、現在の取り組みについて、教育監から説明をお願いします。

○**前田教育監** 部活動の地域移行と教育課程の見直しは、最近開催した教育課題検討委員会でも話題にした2点です。

まず、部活動の地域移行については、もう待たなしで進めていかなくてははいけない。このアンケートで時間をかけているところ、そして減らすべきところというところに出てきたのは、やはり何に時間がかかっているかなって改めて見直してみると、やはり部活の時間が長い。今全国的な流れでもあるというところで、それを減らしていくというところが1つ改革の力になっていくのではないかというところで、最後のところにも、部活動の地域移行を進めるべきというのが出てきていると思います。

ただ、一方で、それで受皿をつくらなければいけないというようなところもありますので、今準備を進めているところでもあります。一方で、教員の仕事として部活動を一生懸命やりたいという人もいるというところ、そして、実際に負担に感じているという人もいるというところで、その先生方の受け止めという、やりがいにもつながるというところを意識しながら進めていかなくてははいけないというところがありますので、その辺りの先生方のニーズもそうですし、一方で、働き方改革というところで考えていかなくてははいけない部分というところを整理して進めていく必要があるかなというように感じているところで、先生方も、自分たちの負担を減らすべきだけど、子どもたちはぱっと手を離すだけでいいのかという不安はすごく感じているというのがありますので、現場からはそういう声もありますので、そこの辺りをしっかりと考えていかなくてははいけないというところがあります。

それから、教育課程の見直しについては、この間話題にしたのは、標準授業時数というのがあります。年間にこの時間やりなさいよということで、これは国の調査もそうだったのですが、市で毎年行っていますが、それを結構オーバーしているのですね。その分を、

そこまでやらなくていいというようなことで、それで時間を生み出し、例えば、部活動の時間もその中に組み込めて、授業時数を少し減らすことで、そこに部活動を入れれば勤務時間内に収めることができるのではないかと、例えば、放課後の会議があるからその後には時間がかかってしまうということについても、授業時数を少し減らすことで、そこに会議を組み込めば帰る時間も早くなるのではないかと、整理をしていくというところではあります。

ただ、やはり一方で、先生方もしっかり教えるためには余分にやってもやらなくちゃいけないのではないかと、現場の声もあるところで、その辺りをどこまでやらなくてはいけないのか、また、この3つ目にありますICT化にもつながるところだと思いますが、効率的に行って効果を上げるということにもつなげていくという、本当にこの3つをセットにして進めていかななくちゃいけないなというのは先日も話題になったところです。

**○廣瀬教育長** 部活動の地域移行については、個人的にずっといろんなところで言っていますが、令和8年度以降は、休日の教職員の業務を外すというそこまでできるように整備したいと思っていますし、教育課程の見直しは横浜の例を文科省が紹介しています。例えば、45分の単位時間を40分に変えると、ただ、年間1,015は保障しなければいけないので、それをどれだけ、何日やったらそれが賄えるのかということも積算した上で、放課後の30分の時間を生み出して、先生方が丸つけしたりノートを見たりする時間になっていると、そういうところまで文科省が例を出してきているので、そういう大胆な改革をしないと、なかなか今の手詰まりの状況は解決できないのかな。

そこで流れてしまうと駄目ですけど、低きに流れてしなくてよいということではなく、教育監が申し上げたとおり、両方、効率化と質の向上を何とか担保していくということもしっかりと理解してもらって進めていかなければならないので、教育課題検討委員会の参加の校長先生には言いましたが、まだオープンにはしていません。全国的には情報が出ているので、そこは要検討していかなければならないというふうに思っています。

**○伊藤委員** それは例として大事やと思うけど、要は、先生たちはどの子にもやはりしっかりと学力をつけたいという指導、生徒指導も含めて、したいという思いがまずベースにあって、その中で、時数が少々多くなろうがというのは、現実的にはあんまり気にしていないところもあるとは思いますが、でも、まずはそこを何とかしたいというふうな気持ちがあって、それをやはりこういう形であればカバーできるというものがないと、なかなかその話の土俵には乗ってこれないのではないかと、思いもあります。難しい部分はある

けど、やっぱり教育は何が大事なのかというところもあるので、またぜひその進め方を工夫していただけたらと思います。

○廣瀬教育長 そろそろ時間もありますので、今のご意見をまとめてさせていただきたい  
と思います。

よろしいですか。御指摘ございませんでしょうか。

### (3) 協議

#### 1 令和5年度教科用図書採択について【非公開】

○廣瀬教育長 では、これよりさきにお諮りしました非公開の案件に入ります。

傍聴の方はお見えになりませんね。